

PALEMO CO.,LTD.

第26期第2四半期報告書  
[2010.2.21～2010.8.20]

変わり続けることが  
変わらぬパレモ。



### パレモ信条

- 一. 私達はお客様の声を大切にします
- 一. 私達は明るく楽しく前向きに主体性ある職場をつくります
- 一. 私達は魅力あふれるブランドを提案します
- 一. 私達は自らの努力で高い目標に果敢に挑戦します
- 一. 私達は仲間と感動を通して輝かしい明日を創造します

### 愛知県ファミリー・フレンドリー企業登録



登録年月日 平成20年6月4日

登録番号 C0018

仕事と家庭の両立に配慮した取り組みを行なう愛知県ファミリー・フレンドリー企業として登録いたしました。

～ Doing it ～

皆様の豊かさ・成長・満足の実現のために



株式会社 パレモ

証券コード:2778

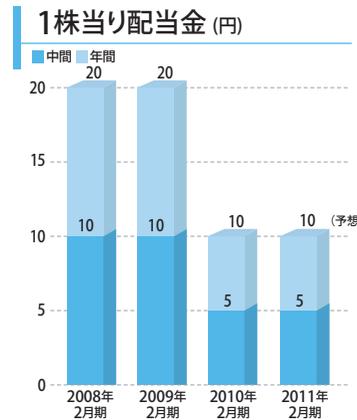
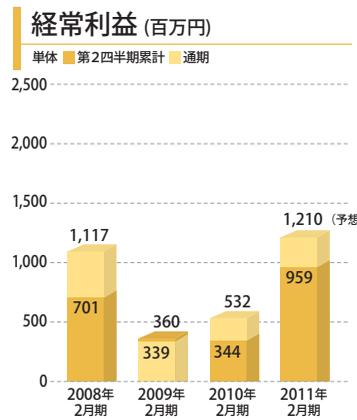
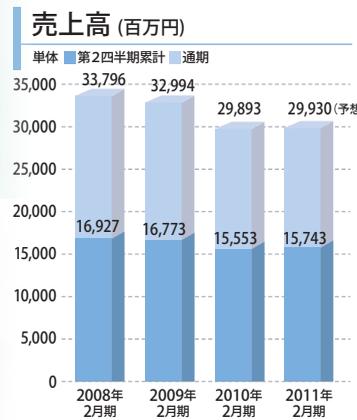
# PALEMO

PAL [仲間] + EMOTION [感動]

PALEMO という社名は、「PAL(仲間)」と「EMOTION(感動)」の二つの言葉を合わせた造語であり、「感性豊かな仲間たちとともに人生、仕事の感動を味わう」という思いが込められています。

INDEX

- 株主の皆様へ ..... 2
- トップインタビュー ..... 3
- アパレル事業の概況 ..... 5
- 雑貨事業の概況 ..... 6
- 店舗の概況 ..... 7
- 四半期財務諸表 ..... 8
- 株式情報 ..... 9
- 会社情報 ..... 10



※2011年2月期(通期および年間)の各数値は予想数値となります。

## 株主の皆様へ

### 第2四半世紀への新たな成長に向け 今期をそのスタートの年といたします

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。当社第26期第2四半期報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

この第26期第2四半期におけるわが国経済は、欧米景気の下振れ懸念による急激な円高ならびに株価の下落などにより厳しい経済環境でありました。個人消費につきましても、政府の景気刺激策により改善傾向が見られるものの、長引く雇用不安ならびに所得環境の厳しさから依然として先行き不透明な状況で推移しました。

当社が属する専門店業界におきましては、新設商業施設の減少、業界他社の淘汰ならびに企業再編、そして長引いたデフレ環境下におけるお客様の嗜好変化など、予断を許さない環境が続きました。

このような環境の中、当社は第26期を向かえ、今期を「第2四半世紀への新たな成長に向けたスタートの年」と位置づけ、「永続的な安定成長」を目指し、「主力事業の収益力強化」に向け「商品力の強化」および「営業力の強化」に努めてまいりました。またローコスト経営に取り組むと同時に、スクラップ&ビルドの継続ならびに既存店舗活性化のための増床ならびに改装も実施してまいりました。このような結果、既存店が堅調に推移したことならびに新設店も収益に寄与いたしまして、上半期は「増収増益」となりました。

下半期におきましては、「主力事業の最強化」に注力して取り組むことを基本とし、株主の皆様のご期待に応えますよう企業価値ならびに株主価値の向上に向け、役員をはじめ社員一同、専心努力してまいります。また企業統治ならびに内部統制を重視しまして、企業の質的向上にも引き続き努めてまいります。

何卒、相変らぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

#### 指針

- 正しい経営
- 安定成長
- ローコスト経営
- 人財経営



代表取締役社長

小田保則



~Doing it~

この言葉には、困難なことも一心に念じ、やり続けることで必ず目標は達成できるという思いが込められています。

当社は25年間、諸先輩方により培われてきた素晴らしい風土があります。この風土の下に、「新たな成長」に向け、新体制がスタートしております。今後も成長し続けるために「改革」を推し進め、時代にあった企業経営を目指すとともに、当社の指針の一つであります「永続的な安定成長」に向け、全社員一丸となり邁進してまいります。

Q.1

当第2四半期累計期間の業績ならびにその要因についてお聞かせください。

増収増益

当第2四半期累計期間の業績は、売上高157億43百万円(前年

既存店増収

同期比101.2%)、経常利益9億59

荒利益率改善

百万円(前年同期比278.1%)、四半期純利益3億56百万円(前年同期△3億99百万円)となりました。業績の要因として、既存店売上高が全社で上半期としましては4期ぶりの増収、前年同期比100.6%と堅調に推移したことがあげられます。

アパレル事業におきましては、消費者の嗜好変化を的確にとらえ、当社の強みであるトレンドアイテムの強化ならびにVMD(ビジュアルマーチャンダイジング)の強化を図ったことなどによりまして、既存店売上高前年同期比は101.8%となりました。しかしながら上半期は好天による天候要因にも恵まれたことに留意する必要があります。

雑貨事業におきましては、主力部門である生活雑貨において、主力カセットの強化ならびに商品の鮮度管理に注力してまいりました。その効果が徐々に表れており、上半期の既存店売上高前年同期比は97.8%となりました。

荒利益率におきましては、両事業のこれらの政策を通じまして、プロパー商品の消化率が高まったことにより53.5%となり前年同期より1.5%改善されました。引き続き専門店として重要である「商品力の強化」に取り組んでまいります。

「営業力の強化」におきましては、VP(ビジュアルプレゼンテーション)の強化により商品提案力を高めるとともに、SP(セールスプロモーション)による雑誌掲載の相乗効果を図りました。サービス力の強化については、定期的な社内教育の実施によりサービスレベルが向上いたしました。

また営業活動によるキャッシュ・フローの増加ならびにこれに見合った投資活動を実施したことにより、フリーキャッシュフローが改善され、借入金の返済ならびに財務体質の改善が図られました。

Q.2

今後の方針ならびに下半期の施策についてお聞かせください。

主力事業の最強化

今後は前期における「企業基盤の再構築」を起点に

都心、モール型出店強化

しまして、新たな成長に向け「改革」を推し進める必要

新事業の着実な育成

があると考えております。

方針としましては「主力事業の最強化」「都心、モール型出店強化」「新事業の着実な育成」の3つであり、この下半期より重点的に取り組んでまいります。

この中で一番重要なのは「主力事業の最強化」であり、新たな成長のために必要な第一歩であると考えております。アパレル事業におきましては「ファッション力強化」を掲げまして、主力ショップブランドであるギャルフィットを中心に、トレンド性重視の商品を更に強化するとともに、V P力の向上にも努めてまいります。雑貨事業におきましては「ファン創造」を掲げまして、主力ショップブランドであるシーベレットを中

心に、主力カセットの更なる強化ならびにオリジナル商品の取り組みを開始するとともに、ビジュアルにおいては売場の楽しさ、ワクワク感を出してまいります。

次に「都心、モール型出店強化」におきましては、今後より集客力の見込める立地へと出店先をシフトすることによりまして店舗の収益基盤の变革を図ってまいります。都心立地ならびにモール型SC(ショッピングセンター)の店舗構成比は28.6%と低いため出店の余地があると考えております。また、雑貨事業におきましては、これまで出店を抑えておりましたが、その収益力を高めることにより再度出店拡大が臨めるものと思っております。

最後に「新事業の着実な育成」におきましては、アパレル事業の「ビサリア」、雑貨事業の「木糸土」および「イルーシー300」を着実に成長させるため、ブランディングに注力してまいります。新事業については一店舗ずつ着実に成功させ、新たな収益基盤として育成してまいりたいと考えております。

通期見通しといたしましては増収増益、売上高299億30百万円(前年同期比100.1%)、経常利益12億10百万円(前年同期比227.3%)を見込み、当期純利益は2億70百万円を見込んでおります。

当第2四半期累計期間の業績の状況

(単位:%)

売上高前年同期比	101.2
経常利益前年同期比	278.1
既存店売上高前年同期比	100.6
売上総利益率(前年比増減)	+1.5
営業費売上比率(前年比増減)	△2.2

当第2四半期累計期間の部門別の状況

(単位:百万円、%)

	売上高	単純前年同期比	既存店前年同期比
ギャルフィット	10,486	103.9	102.8
ライムストーン	731	91.0	92.1
アパレル事業合計	11,217	102.8	101.8
シーベレット	3,594	97.3	97.7
インセンス	659	102.2	98.4
木糸土	127	85.7	96.7
雑貨事業合計	4,380	97.6	97.8

## ■ ギャルフィット



GAL FIT  
Dosch

DOSCH アリオ橋本店

アパレル事業の主力であるギャルフィット部門は当社の収益母体であります。期中における出店はアパレル事業合計16店舗中、「GAL FIT」が7店舗そして「DOSCH」が6店舗でありました。今後も安定的に出店拡大を進めてまいります。セクシー系SPA(製造小売業)型の「DOSCH」に関しましては、アパレル事業の都心、モール型出店の主力ブランドとして今後拡大を図っていく予定です。

## ■ ライムストーン



LIME STONE  
LiMeduo

LiMeduo なんばウォーク店

ライムストーン部門は、期中に都心、モール型ショッピングブランドであります「LiMeduo」を1店舗出店いたしました。「LiMeduo」は大人の女性を対象にオンオフのライフスタイルを演出するブランドであります。競争が少なくなってきたマーケットの中におきまして、都心、モール型立地において確実にその認知度の向上を図っていく予定です。

## ■ ジニー



Jinnee  
Re-J  
remix of jinnee

Re-J 新瑞橋店

大きいサイズを展開する「Jinnee」ならびに「Re-J」は、期中に単独店の「Re-J」を1店舗出店し、当第2四半期末の単独店の店舗数は40店舗となりました。大きいサイズでトレンドを取り入れた商品はファンも多く、お客様のリピート率も高いことが大きな特徴であります。デベロッパーからの出店依頼も増加してきており、今後は単独店の拡大を図ってまいります。

## ■ ビサリア



Visalia

Visalia 渋谷109店

新事業であります「Visalia」は、今年2月21日、渋谷109店にフラッグショップをオープンいたしました。その後好調に推移しており、10月に2号店銀座松坂屋店をオープンいたしました。多数の商業施設からの出店依頼をいただいておりますが、当社の都心型ビジネスとして、着実にブランディングを進めてまいります。

## ■ シーベレット



Siebelet

Siebelet アイシティ松本店

雑貨事業の主力であるシーベレット部門のバラエティ雑貨「Siebelet」は、期中の出店が1店舗でありました。上半期において、商品力ならびに楽しい、ワクワクするプレゼンテーションの強化を図りまして、7月期ならびに8月期は既存店売上も増収に転じるようになりました。これまで抑制してきた出店を収益性の向上を背景に再開していく予定です。

## ■ インセンス



INCENSE  
WITH COMPLETE GOODS

INCENSE 猪名川店

レディース、メンズならびにトラベル関連のバッグ専門店「INCENSE」は、期中の出店が1店舗でありました。SC内に必ず必要なバッグ専門店のナショナルチェーンが少ないことから、出店への期待が多くあります。営業力ならびに商品力の強化を図ることにより収益性を強化し、その期待に応えてまいります。

## ■ イルシー300



ILLUSIE 300

ILLUSIE 300 神戸北店

新事業であります「ILLUSIE 300」はバラエティ雑貨の300円ショップであります。期中3店舗出店しまして、当第2四半期末店舗数は14店舗となりました。今後も地下街などの都心立地ならびにモール型SCに着実に出店をしてまいります。そして、店舗数の増加による商品力の向上を図ることによって、新たな収益基盤として育成してまいります。

## ■ 木糸土



木糸土  
motokudô

木糸土 柏ステーションモール店

新事業であります「木糸土」は自然素材が本来持っている良さや、ぬくもりをそのまま楽しみ、生活シーンに取り入れていくことをテーマとしております。期中の出店が1店舗、当第2四半期末店舗数は4店舗となりました。環境や健康への関心が高まる中、独自性ある雑貨専門店として着実にブランディングすると同時に都心立地への出店をしてまいります。

## スクラップ&ビルドの状況

### 都心型、モール型SCへの積極出店

今後の商業施設の集客力の環境変化を予測しまして、都心、モール型SCへの出店拡大を方針として取り組んでまいりました。期中の出店22店舗の立地別内訳は、**都心型、モール型SCに20店舗**、GMS型に2店舗であります。退店18店舗についてはGMS型が14店舗、モール型SCが4店舗となりました。既存店舗活性化のための増床ならびに改装につきましては16店舗実施しており、この内、増床が5店舗、業態転換が5店舗でありました。

店舗投資額は355百万円、1店舗あたりの投資額は16百万円となりました。当初における年間計画は出店が30店舗、退店が20店舗であり、各々これを上回る見込みで推移しております。キャッシュフローに留意しながら今後も投資していく予定であります。

	前第2四半期	当第2四半期	年間見通し(当初計画)
出店	8店舗	22店舗	40店舗(30店舗)
退店	23店舗	18店舗	35店舗(20店舗)
純増減	△15店舗	4店舗	5店舗(10店舗)
期末店舗	598店舗	577店舗	578店舗(583店舗)
改装店	8店舗	16店舗	20店舗(20店舗)
店舗投資額	125百万円	355百万円	680百万円

## ブランド別出退店の状況

### 主力に注力しながらバランス良く出店

都心、モール型SCにアパレル事業におきましては、「DOSCH」の6店舗を始めとして「Re-J」「LiMeduo」「Visalia」を、雑貨事業におきましては、「ILLUSIE 3 0 0」の3店舗を始めとして「INCENSE」「木糸土」の各ブランドを出店いたしました。

また、部門別出店の内訳におきましては主力部門でありますギャルフィット部門が14店舗ならびにシーベレット部門が4店舗でありました。主力部門の強化を最大の戦略として取り組んできた結果であります。同時にその他の部門も今後に向けての育成を着実に図っていくことを旨として出店をしております。

当社は「多核化」したブランド戦略を方針としており、まずは主力部門の収益力強化に注力して店舗開発を行なってまいります。並行しまして明日への新たな収益基盤への取り組みも行なってまいります。

(単位:店舗)

	出店	退店	業態変更	純増(減)	当第2四半期末店舗数
ギャルフィット部門					
ドスチー	6	0	+1	7	20
ジニー・リジェイ	1	0	+1	2	40
ギャルフィット他	7	7	△1	△1	262
ライムストーン部門					
リメディア	1	0	△2	△1	11
ライムストーン他	0	3	0	△3	19
ピサリア部門	1	0	0	1	1
<b>アパレル事業合計</b>	<b>16</b>	<b>10</b>	<b>△1</b>	<b>5</b>	<b>353</b>
シーベレット部門					
イルシー300	3	1	0	2	14
シーベレット他	1	4	0	△3	118
インセンス部門	1	1	0	0	34
木糸土部門	1	0	△1	0	4
<b>雑貨事業合計</b>	<b>6</b>	<b>6</b>	<b>△1</b>	<b>△1</b>	<b>170</b>
複合店	0	2	+2	0	54

## 全国店舗

全47都道府県に出店  
当第2四半期末店舗数  
577店舗



# 四半期財務諸表

(単位:百万円)

四半期貸借対照表	当第2四半期 会計期間末 (平成22年8月20日現在)	前第2四半期 会計期間末 (平成21年8月20日現在)	前事業年度末 (平成22年2月20日現在)
<b>■資産の部</b>			
① 流動資産	5,043	4,919	4,690
② 固定資産	7,870	8,998	8,222
有形固定資産	1,493	2,104	1,658
無形固定資産	58	64	61
投資その他の資産	6,318	6,829	6,503
<b>資産合計</b>	<b>12,913</b>	<b>13,918</b>	<b>12,912</b>
<b>■負債の部</b>			
流動負債	5,679	6,267	5,970
固定負債	1,121	1,650	1,150
③ 負債合計	<b>6,801</b>	<b>7,917</b>	<b>7,120</b>
<b>■純資産の部</b>			
株主資本	6,112	6,000	5,792
資本金	1,229	1,229	1,229
資本剰余金	1,203	1,203	1,203
利益剰余金	3,687	3,575	3,367
自己株式	△7	△7	△7
④ 純資産合計	<b>6,112</b>	<b>6,000</b>	<b>5,792</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>12,913</b>	<b>13,918</b>	<b>12,912</b>

## POINT

- 流動資産は、50億43百万円となり、前事業年度末に比べて3億53百万円増加しました。これは、商品残高は84百万円減少したものの、売上の増加に伴い、現預金は3億4百万円、売上預け金は2億60百万円増加したこと等によるものです。
- 固定資産は、78億70百万円となり、前事業年度末に比べて3億52百万円減少しました。これは、店舗数の減少(前第2四半期末598店舗、当第2四半期末577店舗)や減損損失1億54百万円の計上等によるものです。
- 負債金額は、68億1百万円となり、前事業年度末に比べて3億19百万円減少しました。これは、短期借入金5億円の返済等によるものです。

(単位:百万円)

四半期損益計算書	当第2四半期累計期間 (平成22年2月21日から 平成22年8月20日まで)	前第2四半期累計期間 (平成21年2月21日から 平成21年8月20日まで)	前事業年度 (平成21年2月21日から 平成22年2月20日まで)
売上高	15,743	15,553	29,893
売上原価	7,317	7,468	14,178
<b>売上総利益</b>	<b>8,425</b>	<b>8,085</b>	<b>15,714</b>
販売費及び一般管理費	7,495	7,751	15,222
<b>営業利益</b>	<b>929</b>	<b>333</b>	<b>491</b>
営業外収益	44	33	76
営業外費用	15	21	35
<b>経常利益</b>	<b>959</b>	<b>344</b>	<b>532</b>
特別利益	13	25	35
⑤ 特別損失	207	885	1,223
税引前四半期(当期)純利益又は純損失(△)	<b>764</b>	<b>△515</b>	<b>△656</b>
法人税、住民税及び事業税	243	87	172
法人税等調整額	164	△202	△257
⑥ 四半期(当期)純利益又は純損失(△)	<b>356</b>	<b>△399</b>	<b>△571</b>

(単位:百万円)

四半期キャッシュ・フロー計算書	当第2四半期累計期間 (平成22年2月21日から 平成22年8月20日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	882
投資活動によるキャッシュ・フロー	△41
財務活動によるキャッシュ・フロー	△536
現金及び現金同等物の増減額	304
現金及び現金同等物の期首残高	315
現金及び現金同等物の四半期末残高	620

(注)前第2四半期累計期間、前事業年度は、第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書および連結キャッシュ・フロー計算書を作成しているため、当第2四半期累計期間キャッシュ・フロー計算書のみを記載しております。

- 純資産は、四半期純利益3億56百万円の計上等により、前事業年度末に比べて3億20百万円増加しました。
- 特別損失は、2億7百万円となり、前第2四半期累計期間に比べて6億77百万円減少しました。これは、前第2四半期累計期間は、商品評価基準の変更による商品評価損6億円、減損損失1億51百万円等があったため、特別損失は8億85百万円となりましたが、当第2四半期累計期間は減損損失1億54百万円、固定資産処分損28百万円等にどまったことによるものです。
- 四半期純利益は、3億56百万円となり、前第2四半期累計期間の四半期純損失△3億99百万円の赤字から黒字に転換しました。

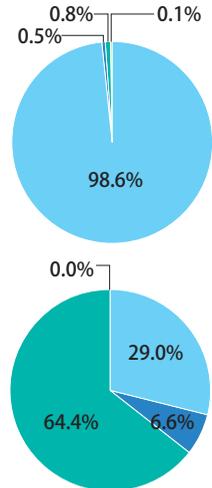
## ■ 株式情報 (2010年8月20日現在)

発行可能株式総数	27,360,000株
発行済株式の総数	7,260,000株
単元株式数	100株
株主数	2,909名

## ■ 大株主 (2010年8月20日現在)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
ユニー株式会社	4,599	63.36
野村信託銀行株式会社(投信口)	310	4.28
パレモ従業員持株会	189	2.61
個人株主A	158	2.18
株式会社SBI証券	73	1.02
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	71	0.99
個人株主B	66	0.91
サンラリー株式会社	50	0.69
個人株主C	35	0.48
個人株主D	26	0.37

## ■ 株主構成 (2010年8月20日現在)



株主数構成比	株主数	構成比
個人株主その他	2,869名	98.6%
証券会社・金融機関	16名	0.5%
その他国内法人	22名	0.8%
外国法人・個人	2名	0.1%
合計	2,909名	100.0%

株式数構成比	株式数	構成比
個人株主その他	2,106,572株	29.0%
証券会社・金融機関	474,988株	6.6%
その他国内法人	4,676,200株	64.4%
外国法人・個人	2,240株	0.0%
合計	7,260,000株	100.0%

## ■ 株主メモ

事業年度 毎年2月21日から翌年2月20日まで  
 定時株主総会 毎年5月開催  
 基準日 定時株主総会 毎年2月20日  
 期末配当金 毎年2月20日  
 中間配当金 毎年8月20日  
 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 住友信託銀行株式会社  
 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号

株主名簿管理人 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
 事務取扱場所 住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10  
 住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先 ☎0120-176-417  
 公告方法 電子公告により行ないます。  
<http://www.palemo.co.jp/>  
 ※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

### ●株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。  
 証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

### ●特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたしております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

## ■ 株主優待

株主の皆様方のご支援に対する感謝の印といたしまして、毎年2月20日現在の株主名簿に記載された300株以上保有の株主の皆様に対し、旬をテーマといたしまして、下記のとおり株主様ご優待品を進呈いたしております。



300株以上 1,000株未満	1,000円の図書カード
1,000株以上	5,000円相当の産地直送果物

## ■ 会社概要 (2010年8月20日現在)

社名 株式会社パレモ  
 設立 昭和59年11月22日  
 資本金 12億2,925万円  
 本社所在地 〒492-8680 愛知県稲沢市天池五反田町1番地  
 事業所 パレモ東京 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14番4号  
 岡谷ビル3・4階  
 パレモ大阪事務所 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島5丁目7番19号  
 第7新大阪ビル8階  
 従業員数 2,778名 (ナショナル社員153名、エリア社員他2,625名)  
 事業内容 婦人服・婦人洋品、バラエティ雑貨、バッグ、服飾雑貨の小売専門店チェーン  
 ホームページ <http://www.palemo.co.jp/>

## ■ 役員 (2010年8月20日現在)

代表取締役社長 小田 保 則  
 専務取締役 松井 理 記  
 常務取締役 永井 隆 司  
 取締役 江里口 直  
 取締役 稲垣 孝 志  
 取締役 岩田 泰 治  
 取締役 吉田 裕 紀  
 取締役 加納 昭 義  
 常勤監査役 武末 逸 男  
 監査役 宮井 真 一  
 監査役 中村 弘 弘

注：取締役のうち、加納昭義氏は社外取締役であります。  
 監査役のうち、宮井真一、中村弘の両氏は社外監査役であります。

## ■ 沿革

1984年 11月 株式会社パレモ 設立(資本金1億円)  
 1985年 2月 株式会社パレモとして営業開始  
 1985年 7月 路面1号店 ギャルフィット原宿店オープン  
 1987年 3月 東京営業本部開設  
 1988年 8月 POSシステムの導入  
 1992年 1月 売上100億円達成  
 1992年 2月 増資 資本金2億円へ  
 1995年 2月 増資 資本金2億6,750万円へ  
 1996年 2月 額面株式を5万円から50円へ変更  
 1998年 2月 シーベレット事業を営業譲受  
 増資 資本金2億8,145万円へ  
 1998年 12月 売上200億円達成  
 2000年 4月 愛知県小牧市に配送センター開設  
 2000年 8月 本社を愛知県稲沢市(現在地)へ移転  
 2001年 2月 全店舗PC導入により情報ネットワーク構築  
 2001年 8月 大阪本部開設  
 2002年 2月 PB商品の本格展開開始  
 2002年 8月 東京東雲に配送センター開設  
 2003年 8月 日本証券業協会に株式を店頭登録  
 2004年 7月 公募増資 資本金を12億2,925万円へ  
 2004年 8月 新POSシステムを導入  
 2004年 9月 全国47都道府県に出店  
 2004年 12月 日本証券業協会への店頭登録を取り消し  
 ジャスダック証券取引所に株式を上場  
 2005年 2月 売上300億円達成  
 2005年 8月 インセンシス事業を営業譲受  
 2007年 11月 新メンバーズ制度導入  
 2008年 1月 巴麓夢(上海)服飾貿易有限公司設立  
 2008年 3月 「ドルチェローザ」ブランドを営業譲受  
 2008年 6月 中国1号店上海久光百貨店にオープン  
 2008年 11月 上海にミツヤ配送センターを開設  
 2009年 1月 パレモ大阪事務所移転  
 2009年 6月 巴麓夢(上海)服飾貿易有限公司売却  
 2010年 2月 ビサリア渋谷109店オープン